

令和4年度 天理高等学校第二部 学校運営評価

評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない

1. 重点目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
①	(信条教育への取り組み) 神恩感謝の念を心に抱き、働く喜びと学ぶ喜びを体得できる生徒を育てる。	学校参拝を真剣に取り組む。	A	○7月から定刻参拝が全学年一斉にできるようになり、真剣につとめることができた。 ○挨拶や声掛けなど、積極的にこなすことができた。 △まだまだ昇殿後に落ち着きのない生徒もあり、定刻参拝に臨む姿勢を指導する必要がある。 △挨拶ができない生徒もあり、生徒と教職員お互いに自然な気持ちの良い挨拶ができるようにしたい。
		教職員から生徒への挨拶・声かけを行う。	A	
②	(生きる力を培う) 知性を磨き、徳分を伸ばし、心身ともに健康で自立した生徒を育てる。	基本的な生活習慣を向上させる。	B	○つとめや団体生活を通して、基本的な生活習慣を身に付け、仲間への思いやりを培っている。 ○電子黒板を利用し、授業研究と実践に取り組めた。 △生徒の言葉遣いや服装、化粧、時間を守る意識、出勤時の遅刻など、まだまだ指導がいきとどいていないところがある。 △分掌や生徒指導などで時間に追われ人員不足を感じる事が多く、授業研究が十分に行えていないところがある。
		他者への礼儀と思いやりを培わせる。	B	
		授業研究と実践の工夫に取り組む。	B	

2. 教育活動の目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
信条教育	(1)親神様、教祖にお喜びいただき、現代社会に必要な「道の後継者」を育てるべく、教職員自らが日々信仰実践に励むよう努力する。 (2)3年次に別席を運び、「おさづけの理」を拝載させていただき、4年次に積極的に「おさづけの理」を取り次ぎ、「よふほく」の自覚を持たせるようにする。	学校・学寮研修会、つとめ先懇談会を通じて、学校・寮・つとめ先の連携の強化を図り、おちばに伏せこむ姿勢を培う。	A	○学年での定刻参拝が再開できたことは良かった。 ○月次祭行事を通して、生徒共々つとめに真剣に取り組んだ。 ○よふほくとなった4年生が、下級生におさづけを取り次いでいる。 ○職員月次祭まなびに多くの先生方が参加し、陽気に勇んでつとめることができた。 ○各学寮懇談会が開催出来て、寮関係者と意見交換ができた。 △大祭参拝を実施できず、大祭や月次祭に対しての姿勢を学ばせる機会が少なかった。 △生徒へ伏せこみについて懇々と伝えることができなかったように思う。
		教養科の授業の中で、「つとめ」の大切さを教え、大祭参拝・大祭行事・月次祭行事を通して報恩感謝の心の涵養を図る。	B	
		教職員自らが積極的に「おさづけの取り次ぎ、ひのきしんへの参加、職員月次祭まなび」に参加し、信仰の実践に励む。	B	
学習指導	(1)生徒の能力・適性・生活条件に即した魅力ある教育課程の実施をめざす。	「わかる授業」の実践を目指して校外研修に参加したり、教科内での授業研修を行い、指導技術の向上をめざす。	A	○新課程になり、評価方法が変わったことから、生徒個々の能力をより細かく見ることができるようになった。 ○新課程実施に対応するため、教科会議を頻繁に行い、授業展開に必要な意見交換を行った。 ○各教室に設置された電子黒板を利用して、わかる授業を心掛けた。 ○基礎・基本の定着に重点を置いた、教科の授業に取り組んでいる。 △コロナ禍の影響もあり、校外研修にあまり参加できなかった。 △校外研修を含め、研修時間の確保が非常に難しい状況だった。 △課題や復習に関して、二部生の生活やつとめをどの程度考慮すべきか判断が難しかった。
		基礎・基本の定着の徹底のため、各教科で、課題を与えたり講習を施したりする。また、「確かな学力」を育成するうえからも、全学年の「校内模試」の実施により、さらに学習意欲を高めるようつとめる。	A	
進路指導	(1)個々の生徒の希望進路を実現するために、本校の実情を踏まえた指導を行う。 (2)社会に出てからも通用する学力・教養を身に付けさせる。	3年次の選択科目決定の際、自らの進路について、しっかりと考えさせる。	A	○コロナ禍による社会状況や学校生活の激変の最中ではあるが、学級担任及び進路指導部が中心となり、就職・進学希望者ともに進路保障をすることができた。 ○生徒の将来に繋がるよう意識した授業を展開し、生徒自身が将来について考える機会を多く設けた。 ○本年度より携帯電話・スマートフォンが許可制となり、進路関係における利便性が大きく向上した。 △主に大学進学希望者に対して実施している進学講習について、講習のあり方や講習内容を検討する余地がある。 △就職3年以内における離職率の増加という社会問題について、どのように未然に防いでいくかが大きな課題となっている。
		授業はもちろん、基礎講習・進学講習の充実を図り、全国レベルの模試も積極的に受けるように指導する。	B	
		進学先・就職先の情報をできるだけ多く提供する。	A	
人権教育	(1)「陽気世界」実現のために「天理教の教義」の実践を通し、あらゆる差別意識の変革をめざす。	研究大会、研修会・公開HR等に参加するなどの自己研鑽につとめる。	A	○今年度は高人教公開ホームルームがあり、担任の先生方を中心に研鑽が積み重ねられ、より充実した人権ホームルームを実施できた。 ○新任の先生方には、新任研修会に参加いただき、見識を深めるとともに生徒対応のヒントを得られる機会となり、良かった。 △いじめや差別についての学習はしているが、生徒はどこか他人事のような受け取り方をしているように感じる場面があった。 △校外の研修会への参加があまりできなかった。 △人権ホームルームの年間計画、4ヶ年計画をさらに充実させたい。
		あらゆる教育活動において、人権に配慮した指導を行う。	B	
		生徒個々の様子や変化に気を配り、差別・いじめの防止につとめる。	B	
ひのきしん生指導	(1)4年間のおちばへの伏せこみを通して、よふほくとしての自覚と自信を培い、お道の御用に、また、社会に貢献できる人材の育成をめざす。	「つとめ先訪問」を通して、つとめ先と学級担任との連絡を密にし生徒の育成に資する。	A	○「つとめ先訪問」を担任、副担任の枠を超えて学年で事に当たること、つとめ先との連携を図れるばかりでなく、チームで今まで以上に生徒指導に丁寧に向かえるようになった。 ○「つとめ先懇談会」を3年ぶりに実施でき、つとめ先との距離が近くなったように感じる。 ○生徒は4年間のつとめを通して自己肯定感や自尊心を高めている。 ○つとめ先との連携や共通認識を持つ取り組みを通し、勤務状況の改善が見られた。 △生徒の中で「つとめ」に対する意識が低くなってきている感があるが、具体的な解決策を見いだせずにいる。 △つとめ先と学校との思いが違ふときがあったが、学年はもちろん、教庁世話課とも連携を取ることで、改善が見られた。しかし、まだまだ見直しが必要な課題であるので、引き続き、生徒のつとめ環境の改善に尽くしていきたい。
		つとめ先で生じた生徒の諸問題に対し、つとめ先に適切な対応をお願いする。	A	
生徒指導	(1)生徒の自立・自律を促し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。(2)教員間の連携を強化し、問題行動の予防と指導の一貫性を図る。(3)集団における個々の在り方を考えさせ、それぞれの課題解決や自己実現に向けての自己指導力を高める。(4)個々や集団の安全についての意識の高揚を図る。(5)いじめや暴力の予防と早期発見・組織的対応を強化し、根絶を目指す。	HR活動、教科指導、寮、学校行事、部活動等、あらゆる場面で生徒指導を実践する。	A	○日頃からきめ細かく声かけをおこない、些細な変化も見逃さないよう心がけるとともに、生徒の小さな変化を共有しながら対応することができた。 ○担任や学年だけでなく、生徒指導部、学寮、部活動などと連携を図りながら生徒の指導・支援ができた。 ○1学期当初に個人面談を実施し、生徒理解に努めた。 ○自転車通学者集会や下校指導を実施し、交通マナーの向上や登下校時の安全確保に努めた。 ○4月当初に「スマホ安全教室」、5月に天理警察署による「薬物乱用防止教室」、12月に「こころの安全教室」を実施し、事件・事故の防止等に努めた。 ○いじめアンケート等の取り組みにより、いじめ事象は減少傾向になった。 △服装等身だしなみの指導については、まだまだ徹底の余地がある。 △「報・連・相」による情報共有について、速やかに行われていないケースが目立つ。また、どの程度の情報まで共有すべきかの共通認識が不足し、組織的対応が十分できていない。 △教師個々による指導のバラつきを解消する必要がある。 △教員ごとの負担の偏りを解消する必要がある。 △規則の形骸化している面があり、必要に応じて規則の見直しが必要である。 △問題事象が深刻化する前に生徒の心の状態や生徒が発するシグナルにアンテナを張り、早期対応・組織的対応ができる体制を整える必要がある。
		挨拶の励行、遅刻防止、制服の正しい着用等、小さなことを見逃さず学校全体で取り組む。	B	
		担任や学年任せにならず、寮職員や教科担当、部活動顧問等様々な分掌と連携しながら生徒の人格形成を支援する。	B	
		問題事象だけでなく、気になることは些細なことでも早期に情報を共有する。	B	
		HR活動や生徒会活動、部活動等において、自己や集団の課題に気付く、その解決方法を主体的に考えさせる問題提起や投げかけを行う。	B	
		生徒理解や個々の課題の共有を図るため、個人面談はもちろん日頃の声かけを徹底する。	B	
		登下校時の安全確保のため、定期的な下校指導を行う。	A	
		自転車通学者集会や登録時の点検等を徹底する。	A	
		事件・事故防止のため、関係機関による各種講演を実施する。	A	
特別教育活動	(1)学校生活の充実をはかるために積極的に活動できる心豊かな生徒を育てる。 (2)部活動に積極的に取り組み、主体的に行動できる生徒を育てる。	行事を通して生徒の自主性を高め、達成感を得られる活動の工夫と充実を努める。	A	○学校行事等、生徒が自主的に運営し、積極的に取り組み、達成感を高めることができた。 ○学校行事等において、向上心を持って多くのことに挑戦し、高い能力を発揮できた。 ○部活動の参加率が高く、短時間に熱心に活動し、多くの部活動で好成績を残している。 △生徒の自主性を高めるために、更なる工夫が必要である。 △行事の反省を次年度に活かさなくてはならない。
		活動の具体的な目標を明確にし、継続して努力させる。	A	
		活動を通して役割を自覚させ、責任感を培わせる。	A	
学級経営	(1)相互の受容と共感によって親密な人間関係を築く。 (2)各自が自分の役割を果たし協力してクラスに参画する自主的、実践的な態度を育てる。 (3)生徒一人ひとりに積極的に関わることによって生徒の個性を理解し、学級経営や生徒指導に活かす。	年間計画にもとづいて学級企画HRを実施し、クラスへの帰属意識と自尊感情を育てる。	A	○個人面談等を行い、生徒理解に努めている。 ○学校行事やクラスの役割を果たすことで、責任を持ち主体的に行動できるようになった。 ○様々な行事を協力して行うことで、クラスのまとまりや団結力が出来た。 △校務分掌等の仕事が多く、生徒やクラスに時間をかけるのが難しい状況である。 △特定の生徒に時間がかかり、多くの生徒とコミュニケーションがとれない。 △担任一人が抱え込まないよう、様々な問題を抱える生徒への対応が課題である。
		学級内の様々な役割を、各自が責任を持って果たすことにより、団結力のあるクラスに育てる。	A	
		個人面談を計画的、また必要に応じて随時行ない、生徒理解に努める。	A	
教育相談	(1)生徒指導部、ひのきしん生指導部、つとめ先、寮、保護者、教会などと連携しながら、生徒が成長できるよう支援を行なう。 (2)生徒一人ひとりの自尊感情を高めるために、支持的・支援的な態度で接する。 (3)学級経営の充実と合わせて、生徒の心の健康を増進させる。 (4)職員研修を定期的実施し、教育相談に関する教師のスキルアップを図る。	一人ひとりの生徒について、担任を中心に生徒指導部、ひのきしん生指導部、つとめ先、寮、保護者、教会などと情報を共有し連携して支援する。	B	○生徒と積極的にコミュニケーションを取り、支援的な声掛けをしている。 ○支援が必要な生徒のことで、寮・つとめ先・保護者と連絡を密に取ることができた。 ○スクールカウンセリング、健康管理室のカウンセリングの利用が増え、生徒の精神的な諸問題に対応するための教職員とカウンセラーとの連携が以前より取れている。 △一部の生徒においては、かなりの配慮が必要とするところもあり、教員や勤務者、幹事の負担が大きくなってしまったことがあった。 △精神不安定等で欠席を繰り返したり、帰省する生徒が多い。抜本的な対策を考える必要がある。 △精神的にしんどくなり、つとめや学校生活に支障が出てしまう生徒についての予防と支援の方法。 △情報の共有や組織的な対応について、システムの構築が喫緊の課題だと感じる。
		授業中、参拝時、休憩時間、夕食休み、放課後などあらゆる時間において積極的に生徒とコミュニケーションを図る。またその際は褒めるなど支持的な声かけをする。	B	
		ホームルーム活動と個人的な支援を連携させながら生徒が元気に生活を送れるようにする。	B	
		教育相談に関する職員研修に参加し、理解を深める。	B	
学寮	(1)学校・寮・つとめ先の三位一体の生活のなかで、学校・つとめ先・保護者との連携を強化し、互い立て合い助け合う心育て、生かされている喜びを素直に受けとる生徒を育てる。 (2)身土上り・かきもの・かきもの自由のご守護に感謝し、進んで「朝起き・正直・働か」を実践させていただく生徒を育てる。	学校・学寮研修会、教職員研修会を通じて、職員相互の関係を密にし、連携を強化する。	A	○積極的に「おさづけ」の取り次ぎを実践した。 ○献身的にコロナ対応ができた。 ○寮職員(幹事も含む)の連携を図り、生徒指導にあたることができた。 △コロナ対応等寮職員への負担が大きい。 △防犯の観点から、防犯カメラ等のセキュリティ強化が必要である。 △寮の耐震化等、生徒の安全確保を切実に感じる。
		学寮職員としてすすんでおさづけを取り次ぎ、おたすけを実行する。	A	
		保健部・教育相談室との連携を深め、精神面でのフォローを行い心身ともに健康的に寮生活が営めるよう支援する。	A	
		生活指導員としての研修を継続的に行い、学寮職員としての資質を高める。	A	